

今年度は「重荷を負う人々と共に」をテーマとして2回の講座を計画しています。浦河べてるの家の向谷地生良氏と、声楽家の青野浩美氏を予定しています。二つとも人間をどう捉えるかということで、今の時代に対する大きな提言となります。

一人一人みんな違っていい べてるの人たちから学んだ生きる力、暮らし方

講師 **向谷地 生良**（北海道医療大学看護福祉学部教授、
社会福祉法人浦河べてるの家理事）

今や、癌や脳卒中などと共に「国民病」と言われるようになった精神疾患は、現在、40人に一人が治療を受けているといわれる身近な生活習慣病の一つとなりました。浦河教会は、35年前から、この病をかかえた人たちが負わされた課題を、教会の課題としてともに担う歩みをはじめ、「浦河べてるの家」の働きを生み出しました。私たちは、偏見や差別の対象となってきた精神疾患を持つ人たちの経験を通して、この病が、大切な「希望の病」であることを教えられてきました。このたびは、べてるの歩みの紹介を通じて、その恵みを語ります。

日時 2013年 9月7日（土）13:30～17:30

場所 関西セミナーハウス ※会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費 1,000円、学生500円（コーヒー込み）

*9月4日までに FAX(裏面)、電話、電子メール等でお申し込み下さい。



向谷地 生良 MUKAIYACHI Ikuyoshi

青森県十和田市出身。1978年より北海道浦河町にある総合病院の精神科専従ソーシャルワーカーとして勤務しながら、精神障害を持つメンバーと共に、地域活動拠点「浦河べてるの家—1984年」の設立に関わる。2001年に当事者研究を開始。2003年4月より、北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科で教鞭をとりながら、現在も浦河べてるの家をフィールドにしながら当事者研究の普及をめざし全国各地をメンバーとともに飛び回っている。日本キリスト教団浦河教会会員

○主な著書

「べてるの家の非援助論—共著・医学書院」2002「べてるの家の当事者研究—共著・医学書院」2005、「べてるの家から吹く風・いのちのことば社」2006、「ケアってなんだろう・共著・医学書院」2006、「技法以前・医学書院」2009、「べてるな人々Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ—麦出版社」2008/2010/2012

◎スケジュール◎ 13:30～15:00 挨拶・講師紹介
 講演・発題
 15:00～15:30 コーヒーブレイク
 15:30～17:20 質疑とはなしあい
 17:20～17:30 まとめとアンケート記入



2013年度 修学院フォーラム

いのち — 生、老、病、死を考える

第2回 7月13日 (土)

「私たちに死ぬ権利は必要なのか」

講師 川口 有美子 日本ALS(筋萎縮性側索硬化症)協会理事

第3回 10月26日 (土)

「死にゆく人格権 — 自宅で家族に看取られる死が理想なのか? 」

講師 福島 旭 (関西学院中学部宗教主事)

社会 — エネルギーを考える — 原子力発電の根本的問題と我々の選択

第1回 11月30日 (土)

「チェルノブイリと福島から」 (仮) 講師: 山崎 知行 (和歌山県海南市医師)

第2回 2014年1月12日 (日) ~13日 (月・祝)

「社会科学の視点から」 (仮) 講師: 姜 尚中 (聖学院大学全学教授)

「聖書の視点から」 (仮) 講師: 上山 修平 (日本キリスト教会横浜海岸教会牧師)

福祉 — 重荷を負う人と共に

第2回 2014年2月22日 (土)

「前例がなければつくればよい」 講師: 青野 浩美 (声楽家)

【申込み・問合せ】

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

所長代行 榎本 栄次

担当 都木かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2013年度 修学院フォーラム「福祉」第1回 参加申込書

(フリガナ)	
名前	所属
住所〒	
電話 ()	FAX ()
電子メール:	@
通信欄:	